

四国(愛媛)の防災

愛媛大学
工学部環境建設工学科教授

矢田部 龍一



1. 四国の地形・地質と自然災害

四国はフィリピン海プレートの潜り込み部に位置している。そのため、造山活動が活発で急峻な地形を呈しており、西日本の最高峰である石鎚山や剣山などの四国の脊梁山脈が東西に連なっている。この地形の影響を受けて太平洋からの湿った雨雲は四国山脈に遮られて太平洋側に豪雨をもたらし、その反面、瀬戸内側は小雨に苦しめられている。年間降水量は、太平洋側の高知県の平野

部では2,500mm前後、山間部では3,500mmを超えるところがあるのに対して、瀬戸内海側の香川県および愛媛県北部では1,100~1,300mmである。

図-1に四国の地質を示す。東西方向に走る3本の大構造線を境界として、北から瀬戸内側に分布するマグマ起源の花崗岩地帯、その南側に泥岩と砂岩の互層が特徴的な堆積岩である和泉層群が分布している。そして、日本第一級の大断層である中央構造線を挟んで変成岩帯であ

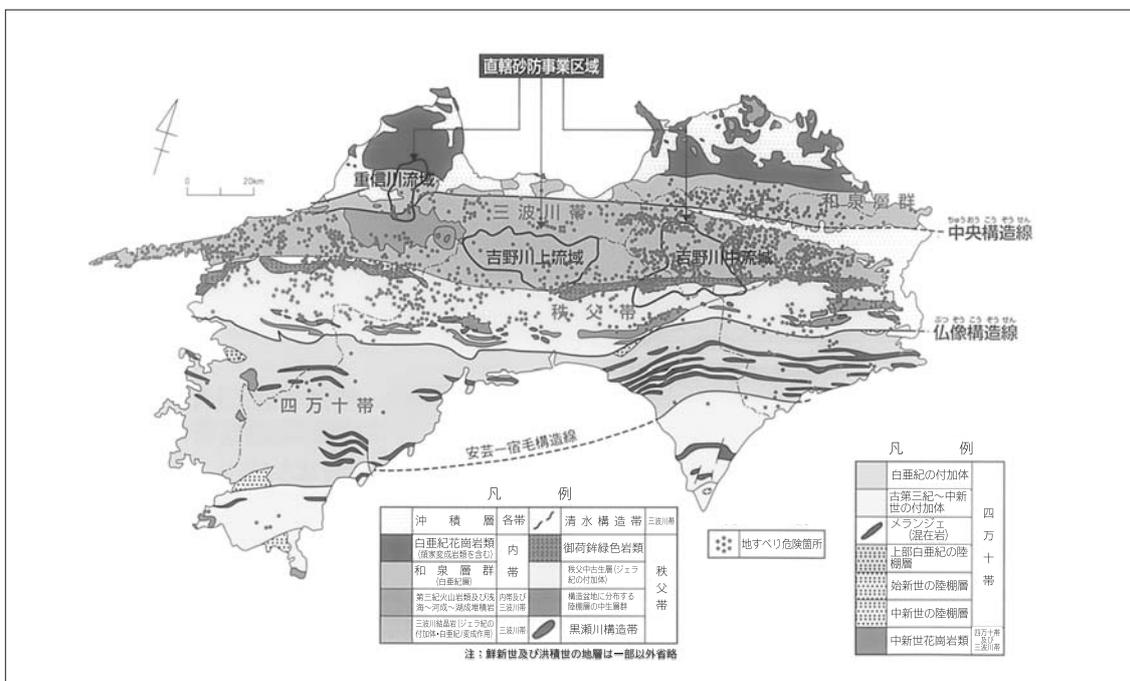


図-1 四国の地質の概要

出典：四国山地直轄砂防事業
平成17年度事業概要-四国山地砂防事務所